

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予 算 特 別 委 員 会 総 務 文 教 分 科 会	会 議 場 所	第 3 委 員 会 室
		担 当 職 員	山 内
日 時	平 成 3 1 年 3 月 1 8 日 ( 月 曜 日 )	開 議	午 後 3 時 0 0 分
		閉 議	午 後 4 時 1 2 分
出 席 委 員	◎ 福 井   ○ 木 村   三 上   浅 田   山 本   松 山   木 曾   石 野		
理 事 者 出 席 者			
事 務 局	片 岡 事 務 局 長、山 内 事 務 局 次 長		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 0 名

## 会 議 の 概 要

1 5 : 0 0

### 【委員間討議】

#### <福井委員長>

予算特別委員会総務文教分科会を再開し、委員間討議、討論・採決を実施する。先ほどの市長質疑では、環境厚生、産業建設にかかわる内容もあったが、それについては全体会で取り扱うこととする。ここでは総務文教の内容、市長質疑について、6点の内容のみ取り扱うこととする。付託議案の討論に入る前に、今回の議案について賛否の判断に問題等があると判断される場合には委員間討議の実施を諮りたい。委員間討議の必要性があれば挙手を願う。

#### <松山委員>

移住・定住促進経費について、赤字や移住・定住者がいない場合も続けていくということだが、これには少し違和感がある。市民の税金を使い、人口を増やすことが目的であるので、これについて委員間討議をお願いしたい。

#### <三上委員>

地域間交流経費であるが、市長の再々答弁を聞いていても、きちんとつかんでいないような感じを受けた。適正に取り扱われているとは思えず納得しがたい。

#### <木曾委員>

市長の色々とやりたいという思いが先行してしまい、予算が後づけのような形になっている。その結果、裏づけが全くなく、漠然としている。そこは皆さんと共有し、話しをした方がいいと思う。

#### <福井委員長>

それでは3点、自由討議をしたい。まず1点目、移住・定住促進経費の「離れ」にのうみについて、松山委員からもう一回提起してもらいたい。

#### <松山委員>

平成30年23%の稼働率であるが、海外の予約サイトで宿泊施設として集客している部分もあるし、もちろん移住したいと言って泊まれる方もいるが、移住実績はゼロ件という状況である。今後、この状況が続いても事業を続けていくと言って、移住もされていない実績の中で、市民の税金を使って続けていくのはどうなのか、これからどうしていきべきかを考えていきたい。

<木曾委員>

補助金の絡みがあるので移住・定住と言っているが、正直なところ観光である。この予算が観光であればわかりやすいと思う。移住・定住と結びつけようとするから余計に話しがややこしく、説明もしにくくなっている。これを観光客を呼び込む起爆剤とするために、市が古民家を改良して集客しようと考えているという説明だけでは、経費の問題等努力はしないといけないが、まだわかる。移住・定住促進とすると考え方が狭まってきて、余計に観光にも力が入らなくなってしまっている。

<木村副委員長>

移住・定住促進経費の空き家改修等の移住促進補助は、府から補助金510万円が出ている。これは目的を変えて観光にしても問題はないのか。

<福井委員長>

問題はあと思う。

<石野委員>

まだ今は始まったばかりである。いつまでもこのままであれば、結果を待って切り替えてもらうことになると思う。

<松山委員>

始まったばかりではあるが、リミットを決めて、移住・定住につなげられないのであれば観光に変えた方がいいのではないかと。そういう前向きな施設の使い方をしていけたらと思う。ただ、市長の答弁では、これから先、動きがなくても継続して移住・定住促進施設として使っていくと言っていたところがひっかかった。

<山本委員>

「離れ」にのうみについては、宿泊施設としては趣があり、人気もありリピーターも増えていると聞いているのだが、実際に移住・定住でこの施設に泊まった人が移住につながるかと言うとどうかと思うところもある。移住・定住で泊まる場合は3分の1の価格になるので、やはり観光で泊まってもらって、2、3年で稼働率40%でようやくペイになると去年の予算説明で言っていた。そうであれば、移住・定住が目的の施設であり、市長が先ほども答弁で足りない分は市で負担していくと言われたので、ずっとこれが続くと大変なことになるのではないかと感じた。この施設が本当に移住・定住の目的に沿った施設なのか疑問だ。

<福井委員長>

移住・定住施設「離れ」にのうみを作る時の説明では、来て、泊まってくれた人たちを市の職員が色々なところへ案内するとのことであった。だが、今日の市長答弁では、本市の魅力発信の基地だと言われていた。それはそれでいいが、テレビで放映されることもいいのだが、はっきり当初の目的と変わってきていると感じた。

<浅田委員>

松山委員が先ほど言っていたように、改造する前の写真などを施設の中に置き、来ていただいた方に担当部署の職員がまず説明すれば、置いてあるだけではなくて目を通していただくことができれば、移住促進と観光の両方いけるのではないかとと思う。宿泊だけであれば観光になってしまうので、目を通してもらうきっかけを与えることが必要だと思う。

<木曾委員>

市長が「離れ」にのうみを作るにあたり、国や京都府の補助金をもらうために移住・定住促進施設としたが、実際は観光としてやりたかったのか。それとも、もともと移住・定住促進のためにあれだけの経費をかけたのかというところが一つのポイントだと思う。去年の予算特別委員会の説明で、これだけの金額をかけて本当にペイ

するのかと聞いたが、ペイはできないとのことであった。移住・定住だと言っていた。だが、去年1年間の実績はゼロ。それでは、何をもって補充をするのか。それに、赤字は市が負担すると言っている。それでは、8千万円かけた上に、今後は運営を会社に委託し、維持管理をしていかなければならない。本当の目的は移住・定住で補助金のいいメニューがあったから使った。現実には移住・定住は難しい。今後は移住・定住から少し変えていかなければならない。だから、3年間だけ少し辛抱してということであればわかる。稼働率40%は絶対無理だと思う。

<木村副委員長>

本当に移住・定住を考えてもらうのであれば、亀岡にどれだけの空き家があって、ここにこういう物件があるが、どこか回られるかという案内があれば、1回行ってみようかということになる。続けるのであれば、そのような努力が要ると思う。例えば古民家、土地付きで、田んぼもあって、水がおいしいといったアピールがあれば、退職した人が亀岡へ移住してみようかと思われかもしれない。ただ泊まりに来てくださいと言っても、「離れ」にのうみのところは土地も高いし現実味もない。

<松山委員>

移住・定住と観光、これをどちらかに振り切るのも一つの選択肢であり、観光の閑散期は移住・定住として使い、繁忙期は観光で使うというやり方も一つかと思う。本当に移住してほしいのであれば、施設の中にもっと移住したいと思わせるものや仕掛けが必要だ。観光であれば、また来たいと思わせる仕掛けが必要だ。亀岡に行ってもいいかなというフェーズに持っていかないといけないのではないか。ディズニーランドに行きたいと皆さんは言うけれども、亀岡に行きたいとはならないので、行っていいかなというところにまず持っていくのが重要ではないか。

<福井委員長>

意見として、今は観光なのではっきり観光にするのも一つ、もう一つは、まだ始めたばかりでこのまま続けても先は見えているので、移住・定住につながる展示、紹介、亀岡の魅力の発信などをしっかりするべきということ。市長のように、ここに観光客がたくさん泊まってくれることが発信だなどと言うと、それは観光そのものになってしまうということであった。

<木曾委員>

これは予算のことなので、「離れ」にのうみは1,177万円の経費が必要であり、初めから379万円は不足することになっている。毎年約400万円の赤字が出る。10年間では4千万円になる。それはどうかというのが皆の意見だとしてはどうか。1,177万円の経費がかかり、収入は799万円で、その差額の377万9千円が不足する。その分は補填すると言っている。稼働率23%であるからで、稼働率が上がればと言っている。1,177万円に含まれる委託費200万円が妥当な金額なのかもよくわからない。200万円ということは、常駐はしていないと思う。経費と収入と補填する金額のバランスを予算から考えると、いささか問題があると感じる。

<福井委員長>

1点目の移住・定住経費の自由討議は一旦打ち切る。2点目、地域交流促進経費、NPOのデイサービスについて自由討議を行う。三上委員からもう一度問題提起をお願いします。

<三上委員>

市長の再答弁を聞いても、市はきちんと把握しておらず、指導や助言もできていない状況である。議会からの指摘に対して、約束を果たされていないと感じた。また、

20人という枠がありながら、いつも決まった人しか来ていないとの答えであった。そこに継続して委託をしているということは問題ではないかと思う。

<木曾委員>

一番問題なのは、決算書や事業報告書の内容がきちんと公表されていないことだと思う。それがあればチェックができるが、運営されていることと事業報告が違うのであれば指摘しなければならない。300万円の内容は何なのか。実際の内容と乖離しているのは市の管理ミスではないか。9月議会の決算特別委員会分科会で言ったことがきっちりできていれば問題はなかったのだが、それができていないことが指摘という結果になり、また予算に上がってしまったということである。

<三上委員>

市長の最初の答弁で明確な答えはあったのか。

<福井委員長>

市長の最初の答弁は、法的に大丈夫だとは思いますがはっきりしないことがあり今後精査するということであった。

<木曾委員>

市長は、NPOが追加で買った材料代を利用者から徴収していたもので、問題はないとの報告を受けたが、それなら追加の材料費は補正をするか、決算で収入に追加しておくべきであったと答弁していた。

<山本委員>

市長は、財政サイドでは少し不透明なところがあるとはっきりと答弁された。収入があれば雑入としておくべきだとおっしゃっていた。契約に関しては、随意契約になっているので、今後は入札制度にするか、提案制度にしていきたいと答弁されていた。答弁を聞いて、そうしていただければと感じた。

<木曾委員>

市長は、おそらく人権福祉センターに対し施設管理を含めて適正にするよう言っていると思う。実際に現場になると、地域のNPOとは言え団体との関係があり踏み切れないというジレンマがあるのだろう。だが、地域の中での活動は問題ないとしても、市の事業にかかわる部分に関しては透明性を持ってやるように舵を切り、行政が主体性を持って対応することが大事だと思う。それができない限り、同じことを繰り返していくのではないかと心配している。職員さんも頑張っているが、気の毒だと思う。

<福井委員長>

3点目、文化振興経費、霧の芸術祭について問題提起をお願いする。

<木曾委員>

これについては、市長が色々なことをやろうとしていることは問題ないが、きちんとした構想をして計画を立て、予算化していくべきである。芸術というのはこんなもので、これだけ要するというアバウトな説明は、市長の説明としてはおかしいと感じた。計画を立てた中でどうしてもこれが必要だとか、例えばアドバイザーに関しても、他の例で150万円ぐらひはかかっているといった具体的な話がなく、余りにもアバウト過ぎると感じた。

<福井委員長>

その視点では4番も一緒である。

<松山委員>

4番のかめおかプラスチックごみゼロ宣言のエコバッグや、1番の移住・定住も、市のPRを霧の芸術祭と絡めていくという話しであったが、例えば具体的に、ア

トコーディネーター費用200万円はこういうことをしてくれるといった具体的な説明がなく、この事業に予算をつけるといっても曖昧な部分がある。この予算に対しては補正とするとか、中身が確定してからでもいいのではないかと思う。

<福井委員長>

1,200万円については、250万円は昨年も当初予算にあり、400万円ほどが補正予算でついたので、去年は650万円であった。今年は1,200万円であるが、500万円の補助金が確定しているから補正にはできないとの市長答弁であった。何の補助金かと聞くと、2020年のオリンピックに向けての補助金とのことであった。それなら2020年で終わると理解した。必要最低限の答弁はあったと思うが、非常に曖昧なものである。

<三上委員>

これは継続してやる事業ではないという認識で間違いないか。

<木曾委員>

2020年までやるという言い方であった。

<松山委員>

エコバッグもそうだが、市民参加ということは市長が強く言っていたことなので、市民に参加してもらえるような仕組みにしてほしい。

<山本委員>

エコバッグについては、ここは担当ではないが、フラッグをつくって縫い合わせて、そこを切り取ってエコバッグ、パッチワークと言われたけれども、それはすごく面倒くさいし、市民参加と言っているが、本当にそのやり方がいいのか、どれだけの人が参加してくれるのか疑問に思った。もう少し時間をかけて、本当に参加してもらえるような事業にお金を有効に使ってもらいたいと思う。

<福井委員長>

その通りだ。何も決まっていないが予算だけ出しているのが見え見えである。

<木曾委員>

市長が言おうとしていることは、きっかけをつくって押し出さない限り前に進まないということについてはよくわかる。以前は、事業縮小と借金返しと事業整理ばかりでなかなか前に進まなかった。何とか道筋をつけ、元気な亀岡を出したいという思いの中で一生懸命にやっているのはわかる。2020年のターゲットイヤーとリンクした予算があがってきた。地方創生、移住・定住、小学校の空調なども含めた教育費など、多くの事業を一時にやろうとして、現実がついていけないのが現状ではないか。その金額ありきで、見合う事業をやろうとするから説明が曖昧になっている。これからの考え方で、否定ばかりするのではなく、前向きに考えながら、いかに亀岡に合った事業であるか、予算をしっかりと点検しなければならない。結局、決算の時にあのパッチワークは何だったのか、携わったのは一部の人だけで、霧の芸術祭は当事者が盛り上がりただけではないかとなってしまったら残念だ。もう少し地に足を着け、ゆっくりとやっていくべきではないかと思う。後ろ向きではないのだが、余りに前のめり過ぎと感じる。

<三上委員>

共通して言えるのは、ターゲットイヤーとかチャンスだというのは、それはそれでいいのだが、やはり持続可能な事業や取り組み、市民にとって、市民も参加できて、納得して続けていきたいと思える、まちを誇りに思える、あるいは、外から見ても住んでみたいと思う、そういう事業ではない部分が多いように、この自由討議で感じた。議会は応援も必要であるが、指摘もしなければいけないと思う。

<福井委員長>

新しい事業をする時は、数字ありきではできない。予算内容が少しくさんに感じる  
ので、それを議会として認めていくのかどうか。

<木曾委員>

認める認めないということよりも、認めた上で議決責任としてのチェックをきかせる  
方がいいのではないか。本当にこれらの事業が、市長の言うターゲットイヤーに  
なるのか。また、移住・定住につながられるのか。この予算を認めた後、決算でま  
た出てくるのでチェックすることが大事ではないかと思う。色々な補助メニューを  
国や京都府が出すので、財源を確保することも、事業を継続することも大事だと思  
う。

<山本委員>

ターゲットイヤーにつなぐ事業を色々を出してくださったのはいいことだと思う  
のだが、それをいかに市民に理解いただけるかが大事になってくると思うので、そ  
れをまず考えて事業実施をしていただけたらいいかと思う。

(委員間討議終了)

## 【討論・採決】

<福井委員長>

それでは次に、これより討論に入る。本分科会所管分の事案について、一括で討論  
をお願いしたい。

<三上委員>

一般会計予算についてはこの所管分でも大いに疑義があるところがあり、反対の立  
場で討論する。自由討議で話が深まり、議会としては認めてしっかりチェックして  
いくということもあるかと思う。ただ、3番を含めて、思うようになっていない  
こともある。もう一つは、市民の思いや実情と、この予算とがどれだけ合っている  
のか、私たちは党派として予算編成に当たっての予算要求書も出させていただいた。  
その思いは、確かに目の前にターゲットイヤーがあるのだが、それ以前に日々が大  
変だという方もたくさんおられる。老舗の業者や商店が店を畳むということも色々  
と聞いている中で、市民の思いは、もっと市民にとって予算が使われているという  
実感があるものでなければいけないと思っている。そういう点でも、ただ反対する  
だけではなく、必要なもの、有効なものは認め、本会議で修正案を出させていた  
きたい。ここでは反対とさせていただきます。

## 【委員間討議】

<福井委員長>

本日の市長質疑の7、8、9は委員間討議には入れていない。先ほどこれについて  
はないということで終了したのだが、あるのであればもう一度討論してもらおうがど  
うか。

<松山委員>

不登校の対策支援をお願いしたい。

<福井委員長>

意見が出たので委員間討議に戻る。松山委員から問題提起をしていただきたい。

<松山委員>

不登校の対策支援員の数が減ったが、4名であったり、昨年は5名だったり、人数の確保が曖昧な状態である。ただ、実態としては不登校、不登校予備群の子どもの数は年々増えているので、今後の支援員確保について市の考えを教えていただきたいと思った。

<木曾委員>

不登校の支援員については、その予算は前年度と変わっていないと言うのだが、不登校が増えているとも言っている。そうすると、その予備群も増えており、その対策が必要となるため、前年は5校に支援員を配置している。今年、4人はどこに配置するとの説明はなく、1校減ることになる。不登校が現実が増えていの中で、手厚くする必要があるのではないか。学校の運営面だけでなく、色々な問題が起こりかねないという心配があるので、議論を深める必要があると思うし、予算を拡充することも必要になってくるのではないかと思う。

<松山委員>

支援員は、不登校や不登校予備群の子どもたちにつきっきりで一日中接していただいており、その結果、学校に行きたいと思ってもらえるようになったり、また健康面、精神面の支えになっているという実態がある。これからの未来を担う亀岡っ子を作っていく上で、本当に重要な部分だと思っていて、亀岡で過ごした学生時代が嫌で市外に出てしまうということもある。教育委員会は、その実態が余りわかっていないのではないかと感じた。

<三上委員>

前年度と同額の予算を組んでいるが、不登校傾向にある児童生徒の数は増えているはずだ。現場ではその対応が非常に大変で、例えば昼から登校したら教室に入れないので、誰かがつきっきりで面倒をみなければならない。エアコンも入り、トイレもきれいになって皆さん喜んでおられるけれども、一方で、人が足りないという声は切実にあるので、教育委員会としてもっと深刻に認識すべきだと思う。雨漏りのように、直したら結果が出るというものではないので難しいとは思いますが、学校に対する危機感を持っている。

(委員間討議終了)

## 【討論・採決】

<福井委員長>

改めて討論を行う。

<三上委員>

よくわからないイベントをするよりも、学校の雨漏りを直してほしい、これが市民の思いではないかと思う。そういう予算の組み替えが必要だと思っているので反対ということにする。

<木曾委員>

総体的にこの予算特別委員会総務文教分科会に付託された議案に関しては、了したいと思っている。その理由は、市長は、前市長から引き継がれた中から非常に整理をされて、いよいよ動く時期に来た。大河ドラマ、スタジアム、東京オリンピック・パラリンピック、そういうターゲットイヤーの年度を迎える予算であるだけに、非常に注目して取り組みをされたのだろうと思っている。それだけに少し不安定な予算となっているところはあるが、それは決算で我々が点検し、必要な部分と必要でない部分を精査する必要があると思う。今はこうした色々な事業の取り組みによ

って、亀岡が活性化するようなまちづくりをしていくことも大事ではないかと思う。この内容について、賛成という立場で討論したい。

<山本委員>

第1号議案の総務文教分科会に付託された平成31年度一般会計予算について、賛成の立場で討論する。先ほどから色々と意見が出たのだが、かめおか霧の芸術祭、また京都スタジアム、東京オリンピック・パラリンピック、大河ドラマ館の開設と、2020年のターゲットイヤーにつなぐ、地域のにぎわいづくりが期待できる事業であると感じている。ただ、市民に理解していただく努力も必要かとは思っている。それとともに、昨年多く発生した自然災害の教訓を生かして、防災・減災対策に対する予算も含まれていたの、それを評価したい。

<石野委員>

2020年のターゲットイヤーに向けて、この平成31年度は助走のような予算として組まれていることもあり、しっかりと決算等でチェックしていくということで、予算としては賛成する。

(討論終了)

(採決)

- 第1号議案 平成31年度亀岡市一般会計予算所管分  
(挙手多数) 可決 (反対：三上)
- 第7号議案 平成31年度亀岡市曾我部山林事業特別会計予算  
(挙手全員) 可決
- 第11号議案から第40号議案まで  
平成31年度亀岡財産区外29財産区特別会計予算  
(挙手全員) 可決

### 【指摘要望事項】

<福井委員長>

分科会委員長報告の作成に当たり、特に意見があれば伺う。委員長報告に関しては、本分科会の審査経過を全体会に報告するものである。したがって、指摘要望事項に関しては、予算全体会において取り扱いを譲受されることとなるから、それを踏まえた上で、当分科会として特に全体会に報告をする。報告すべき事項があれば一緒に伺う。まず、分科会の委員長報告の作成と指摘要望事項について意見はあるか。

<木曾委員>

指摘要望の項目は言わないといけないのか。

<福井委員長>

事務局、この分科会から指摘要望をしたい項目を全体会に上げて、全体会で協議するのか。指摘要望にしてほしいという意見を抽出したらいいのか。

<事務局次長>

そうである。今回から予算特別委員会が分科会方式になったのだが、基本的には決算の分科会方式と同じである。分科会の委員長報告の中で盛り込む指摘要望事項について協議いただいているが、それは分科会としての委員長報告の中で指摘する項目ということで、最終決定ではない。最終は、全体会で皆さんで協議いただくことになる。

<木曾委員>

まず1点は、ターゲットイヤーとして取り組まれている事業に関して、この総務文教分科会に付託された事業費の内容について、事業実施する際に、事業に沿った内容になっているのかどうかを点検しながら、市民理解が得られる事業となるよう取り組む必要があると書いていただきたい。文章の内容は、また考えていただきたい。それともう1点、9月の決算特別委員会で事務事業評価を行った協議の内容について再度点検し、今後NPOとさらに協議を行い、事業実施に当たっていただきたいということを指摘したい。この2点である。霧の芸術祭もターゲットイヤーの事業として言った方がいいと思う。項目は1つずつにしてもいいと思う。

<福井委員長>

移住・定住は、先ほど自由討議したがいいか。

<木曾委員>

移住・定住もターゲットイヤーの事業だと思って言った。エコバッグ、霧の芸術祭、「離れ」にのうみもそうだ。

<福井委員長>

この2点でいいか。

<松山委員>

項目として、「離れ」にのうみの今後の使い方について入れてほしい。

<福井委員長>

事業経費の予算立てについて、市民理解が得られるようにしていただきたい。それから9月の決算特別委員会で指摘をしたことについて、きちんと相手先と交渉を行い、早く処理していただきたい。もう1つは、「離れ」にのうみの今後の使い方について、この3点が出たが、ターゲットイヤーのところに「離れ」にのうみを入れられるなら2点である。

<木曾委員>

2つを1つにしようと思ったら、ターゲットイヤーの代表である「離れ」にのうみを頭にして、その他の事業も含む部分の中というようにくくったら1つにならないのかと思う。

<事務局長>

「離れ」にのうみは、ターゲットイヤーとはまた違うと思う。それと、できる限り事業名を明確にした方がわかりやすいと思う。総称するのも1つの言い方かもしれないが、具体的な方がいいという気がする。

<福井委員長>

2点ないし3点を分科会から全体会に上げるために、委員長報告に盛り込むかどうかを諮りたいがいかがか。

— 全員了 —

<福井委員長>

ターゲットイヤーでくくるのが難しいのなら、2番に特化せざるを得ないと思うので、正副委員長に一任いただき、明日確認させていただくことはできるか。

<事務局次長>

明日、19日火曜日、午前11時から分科会を再開していただき、委員長報告の確認をしていただく。

<福井委員長>

内容、語句については正副委員長に一任願う。次回、明日の午前11時から分科会を開催し、委員長報告の確認等を行う。その後、午後になるが全体会が予定されて

いるのでよろしく願います。

16 : 12